

活動報告 2024 年 9 月～2024 年 12 月

ザリガニ駆除、草刈は今年は終了しています。



どちらも 9 月 16 日の全体活動日の写真です。今年はザリガニ駆除が 3 回行われましたが（1 回は雨で中止）、いずれも 100 匹に満たない釣果でした。200、300 が当たり前だった昨年までに比較すると驚くべき結果でした。（前回の活動報告で詳しくお伝えしています）長年の駆除活動の成果なのか、それともたまたまだったのか、もう数年見てみないと判断はつきかねますね。ただ、この抱卵中のザリガニ昨年あたりからよく捕まえることが出来ているので、これは案外に効果的なのかもしれません。右は水路での草刈ですが、「うじゃうじゃいますよ、ザリガニ」という意見もあります。草刈は、今年 11 月上旬に終了。次は、水量が少なるころにオオフサモなどの外来藻の駆除作業を行います。パトロールは年間を通して月に 2 回行われています。

「おだわら SDGs ディ」に参加しました。



9 月 28 日ハルネうめまる広場で開催された「おだわら SDGs ディ」に参加しました。このイベントはいつも活動に協力をお願いしている神鋼環境ソリューションの会員の山崎さん、相鉄企業の会員の小松さんからの誘いを受けての、メダカのミニアクアリウム製作というコーナーへの初参加になりました。



会からは、大橋美恵子さんに終日立ち会っていただきました。お疲れさまでした。途中、櫻井さんや小池さんも顔をのぞかせてくれましたね。加藤市長も見えて、その時に集合写真を 1 枚。おだわら SDGs パートナーに登録するたくさんの企業、グループ、学校が参加したこのイベント、「SDGs」を身近に感じられる良い機会となりましたね。

SAVEJAPAN プロジェクトスタートアップミーティングに出席。



10月17日、東京日本橋の損保ジャパン本社にて、2024～2025年度の全国のキックオフ会合がありました。全国単位なので多くはオンライン参加となりましたが、僕のテーブルには、石川や高知、なんと鹿児島からの方など、多くの皆さんに「野生メダカの保全」のことを知っていただきました。環境庁などからの基調講演などもあり、勉強モードの日でしたが、2日後には本番の「みんなで稲刈り大作戦」も控えており、アタマのなかはその準備のことが半分。全国でいちばん早いイベント開催となったようです。

旭丘高校 OB 阿武剋関 新入幕お祝いと激励のタベに参加しました。



以前から、旭丘高校へは、SAVEJAPAN プロジェクトへの参加のお願いなどで繋がりがあったわけですが、このほどOBの阿武剋関が新入幕を決められたと聞き、「あ、相撲とお米は深い中」と改めて気づき、相撲部の先生にお会いすることになりました。当初は、阿武剋関に「めだか米」のPR大使でもお願い出来ればという相談のつもりでしたが、先生のほうから「幕内力士になると相撲協会のハードルが高い、ウチの相撲部の連中をまずは使うのはどうか」と逆に提案を受けました。（既に、稲刈りイベントには相撲部の皆さん参加し

てくれています) そうしたご縁から、阿武刈閼の「新入幕昇進のお祝いの夕べ」(9月25日)のご案内をいただきました。とは言え、着席で料理が振る舞われる会場で、参加費はひとり1万円。サポーターの会では難しいので、桑原・鬼柳めだか米の会の理事の名義で、山田さんと村田が出席しました。(阿武刈閼はモンゴル出身。旭丘相撲部にはモンゴルからの相撲留学生が5人ほど在籍しています) サポーターの会では、今後も、相撲部の皆さんへの活動参加の呼びかけを行っていきます。後日詳しくお知らせしますが、「餅つき大会」を1月に予定していますが、既に相撲部の皆さんの快諾は頂戴していますので皆さんお楽しみに!! ※阿武刈閼は、親入幕の場所こそひとつ負け越してしまいましたが、翌11月場所は9勝と巻き返しました。1月場所の関取に皆さまご注目ください。

SAVEJAPAN プロジェクト「みんなで稲刈り大作戦」



10月20日 総勢88人の皆さまにご参加いただきました。前述の旭丘高校相撲部の皆さんも10数名が駆けつけてくれました。初めての体験の方、手慣れた方、小さな子供たちから年配の皆さん、和やかに楽しく稲刈りが進みました。星槎高校からはキッチンカーもやってきて、軽食や暖かい飲み物も。お付き合いを続けている絵本作家の夏目義一さんからは、たくさんの絵本が届けられ「お子さんたちにプレゼントを」と嬉しい申し出も。公務を抜け出して加藤市長や市議の方もお見えになり、稲刈りだけでなく「生き物観察」を子どもたちと一緒に楽しめたり、旭丘の相撲部の皆さんは90キロのお米をかつぎあげるなどチカラ自慢を見せてくれたり、盛りだくさんの楽しみがつまった稲刈りとなりました。「ここ桑原は野生のメダカが生息する小田原のたいせつな場所、守られなければなりません」という市長の挨拶もあり、「生き物が住みやすい環境づくり」を謳うSAVEJAPANプロジェクトの担い手の損保ジャパンの皆さんもおおきな拍手を送られていました。





「下水道ふれあいまつり」に今年も出展しました。



昨年に続きの出展、活動紹介と田んぼの生きもの展示を行いました。(10月26日酒匂きらり広場) 下水道と言えば、小田原のマンホールの蓋の多くはメダカがデザインされていますね。そんな思いもあっての出展です。ご家族づれの来場者が多く、子どもたちの目を集めたのは、やはり水槽展示した生き物たちでした。この日の来場者は800人あまり、みなさん各ブースのワークショップや展示販売、ステージの演奏やダンスなどのアトラクションを楽しんでいました。神奈川県下水道公社の主催ということで、地味なイベントかなとおもいきや、なかなかどうしてでしたよ。高橋由季さんに生き物を集めてもらい、荒木さんにはご自宅のメダカを持参いただきました。大橋美恵子さんと村田で終日、来場の皆さんの対応を行いました。

パートナーシップミーティング、SDGsパートナー交流会へ。

10月から11月にかけて、他団体、企業、学校などとの交流の機会が続きました。サポーターの会では活動のことも知ってもらうことだけでなく、「メダカ保護」の輪が少しでも広げられるような支援・応援の理解者を増やそうと、いわば「語り部」としての参加を心がけています。毎年出席している企業・学校・市民団体のパートナーシップミーティング(10月27日)、初めて参加したおだわらSDGsパートナー交流会(11月8日)、どちらもUMECOで開催されました。今年からは赤松大介さんも意欲的に参加してくれています。周囲の団体へのアンテナが村田と赤松さんのふたつになり、心強いかぎりとなりました。赤松さん、頼りにしてます！

さて、その二つの会合の収穫ですが、

- ① 放課後授業の可能性・・・市内の小学校では授業終了後も自宅には戻らない（戻れない）子どもたちが平均して 30 名前後いるそうです。その子どもたちに、市の教育総務課から委託されてマネジメントしている会社と出会い、「小田原の宝もの・メダカの話」をする機会を提案できることに。コロナ以降、中断中の出前授業の代替プログラムとしてピッタリあいますね。市内 25 の小学校のプログラム作成を任されているということで、1 月中に市のほうに提案する予定になっています。（企画書、資料提供済み）
- ② 西湘高校の活動への参加・・・大磯高校や小田原高校、星槎高校、相洋高校の学生たちのボランティア参加の実例を紹介したところ、校内展開をして、何らかのカタチで参加していきたいとのこととなりました。まずは、現地を歩いてみることから、パトロールへの参加を要請中です。
- ③ 国際医療福祉大学の学生への呼びかけ・・・学生へのボランティア活動を奨励しているということで、改めての場で詳しいお話をさせていただきと教授の方と約束。後日に大学を訪問し、「メダカ保護への思い」をお話したところ、「ではまず自分が現地を体験させてもらって、そのあとに学生たちに声を掛けましょう」ということに。そして実際に、同僚の教授とともに「竹灯りの会」にお見えになり、体感してもらうことができました。

この他にも名刺交換が出来た企業や団体はいくつもあり、メールのやりとりで繋いでいるところですよ。

写真は、市長とおだわら SDGs パートナーの会長を務める小田原ガス・湘南電力社長の原正樹さんですが、この秋は、市長や市議の皆さん、市長の秘書的なポジションの市民部長さん、衆議院議員になられた佐々木なおみさんなど、政治・行政関係の方にお会いする機会が多く、皆さん、メダカの保護の重要性を強調してくれるので何かと元気づけられます。

ただ、めだかサポーターの会そのものは、特に政治色を打ち出すつもりはまったくありませんので、皆さま誤解なさぬようお願いいたします。皆さんは、めだかサポーターの会の応援団、そんな認識であります。



こちらは、自然農法田んぼの稲刈り。豊かに実りましたよ。



11 月 4 日、例年は酒米田んぼの稲刈りを行う田んぼですが、今年ほうち米はるみに自然農法にチャレンジして田植えを行った田んぼの稲刈りとなりました。田起こしも代掻きもしない、不耕起の田んぼ。驚くことに、猛暑にも負けずに元気な稲穂がたわわとなりました。この日は、大人の皆さん 15 名、お子さんたちも入れて 20 名ほどで、本当に手際よく稲刈りが進行して、予定よりも 1 時間早く終わることができました。脱穀のためコンバインを出動してくれた農人めだかの郷の皆さん、ありがとうございました。

SAVEJAPAN の事例をもとに、山田さんが講演しました。

12月5日、三島で開催された静岡県主催のフォーラムです。静岡県でのSAVEJAPANプロジェクトの実績がまだ弱く、県も損保ジャパンも、めだかサポーターの会の事例を紹介しながら県内の団体や企業に呼び掛けを行いたいとの意向がありました。

山田さんが登壇し、サポーターの会の活動やめだか米の取組、「めだかの郷」構想の話などを展開されました。(内容については、皆さんに既にメールで投影原稿をお送りしてあります)100人の定員でしたが会場はほぼ満席、真剣な表情で耳を傾ける人が多かったとサポーターの会のSAVEJAPANの取組を支えてくれている藤沢市民活動支援機構の方が報告してくれました。



「竹灯りと、おしゃべりの会」に 70 人余りの皆さんが。





12月8日、当初計画していた焚き火を囲んで焼き芋を楽しみながらのプログラムは近隣の火災のため、配慮して焚き火を中止してしまいました。それにもかかわらず、70人余りの皆さんが田んぼのテラスの周りに集まってきました。サポーターの会関係17人、めだか米購入者や、おむすびの会、森の幼稚園、おほりばた幼稚園、国際医療福祉大学の皆さん、市長をはじめ行政関係の皆さん、市議、衆院議員、その他一般参加の皆さん・・・おもてなしと言えば、温かい飲み物と竹灯りだけです。山田さんや加藤市長のお話に耳をかたむけて、あとはそれぞれがおもいのままのおしゃべりタイムとなりました。どんな交流がここから繋がっていくのか、本当に期待しています。中心になって準備に動いてくれた赤松尚子さん、川上恵美さん、そしてたくさんの皆さん、ありがとうございました。次は、生き物たちを見ることが出来る春から夏にかけての季節に機会を設けられたらと考えています。今回は参加を見合わせてしまった皆さんも、次の機会にはぜひお越しを

予告・お餅つき大会

1月19日、お餅つき大会を行います。会場は、田んぼの真ん中テラス横を予定しています。ご家族連れでお越しください。詳しいご案内は、1月に入りましたら事務局よりメール、LINEでご案内します。旭丘高校の相撲部の皆さんが参加することが決まっています。お楽しみに。

混声合唱団シグナス94の30周年コンサート。券、あります。

サポーターの会、「10年の感謝の集い」で美しい歌声を披露してくれたシグナス94。その創設30周年記念コンサートが1月25日三の丸ホールで開催されます。「感謝の集い」の際に、いただいたご祝儀のお礼に、このコンサートのチケットを8枚購入しました。ご希望の方に差し上げます。村田まで必要枚数をお知らせください（メールまたは電話で。郵送します。）
当会オリジナルの「めだかの歌」をいちばん最初に歌ってくれた合唱団です。それ以来、親しくお付き合いさせていただいています。

